

第176回 番組審議会

- 1.日 時 平成20年10月1日(水) 12:00~
- 2.場 所 メトロポリタン盛岡NEW WING 3F「星雲東の間」
- 3.委 員 委員総数 13名  
出席委員数 11名(欠席委員数 2名)

出席委員(敬称略)

谷口 誠(委員長)

椎井 一意(副委員長)

以下50音順

斎藤 雅博

東海林 千秋

菅原 正二

土樋 靖人

中原 祥皓

村上 幸子

八木橋 伸之

役重 真喜子

吉田 浩次

会社側出席者(7名)

内海 幸司(代表取締役社長)

佐藤 滋樹(常務取締役)

小原 忍(常務取締役)

藤澤 利憲(常務取締役)

前田 秀男(取締役技術局長)

野崎 一裕(めんこいエンタープライズ 常務取締役)

高橋 聡(めんこいエンタープライズ 制作担当部長)

事務局 後藤 望

#### 4. 議 題

#### 第10回FNSソフト工場

### 『map mystery はい地～図!』

平成20年9月5日(金) 19:00～19:57放送

#### 5. 議 事 概 要

今回は第10回FNSソフト工場『map mystery はい地～図!』について審議した。

各委員からは「真面目にやればやるほど面白いというエンタテインメント性があり知的好奇心も満足させるとても優秀な番組だった」、「地図というお題の膨らませ方に感心した。ぜひシリーズ化して欲しい」、「地図の面白さに惹きつけられ、世界地図と地球儀を買おうという思いにもさせられた」などの意見が出た。

また「ファミリー向けの番組でも、子供にすり寄らず、大人の良識で制作するべきだ」との意見があった。

#### 6. 議 事

##### 事 務 局

ただいまより第176回番組審議会を開催いたします。

産経新聞盛岡支局長の土樋委員がこのたび福島へ異動されます。土樋委員には、平成18年10月の第156回番組審議会より委員を務めていただきました。

##### 土樋委員

本日付の発令で福島に転勤することになりました。番組審議会の委員としてほぼ2年間務めさせていただきましたが、テレビ制作の現場の方々の考え方、また委員の方々の見識の高いご意見等を伺い、貴重な経験をさせていただきました。本当にありがとうございました。

##### 事 務 局

どうもありがとうございました。

それでは、議題に入らせていただきます。今回の議題は9月5日に放送されました『第10回FNSソフト工場 map mystery はい地～図!』です。本日は、プロデューサーのめんこいエンタープライズ野崎常務、ディレクターのめんこいエンタープライズ高橋制作担当部長が出席しております。それでは、谷口委員長、よろしくお願いいたします。

谷口委員長

それでは、審議に入ります。まず野崎さん、高橋さんから、今回の番組の背景などについてご説明やご感想をお聞かせいただきたいと思います。

野崎プロデューサー

このFNSソフト工場は、今から10年ほど前に、フジテレビ系列テレビ局の制作力とソフト開発力の向上を目的として立ち上げられました。これまで、めんこいテレビは5本を制作しています。

フジテレビ系列のテレビ局28局を4つのブロックに分け、各ブロックごとにコンペ形式で2作品を決定し制作いたします。めんこいテレビは北海道・東北ブロック6局に入っており、昨年の11月にコンペを行って、当社が選ばれました。

今回の募集のテーマは、ファミリー層をターゲットとし、なおかつシリーズ化が可能であるという2つの柱を持つ番組、ということでした。昨年のブロック審査会の席においては、「国境を跨ぐゴルフ場はぜひ見てみたい」、山形さくらんぼテレビの審査員より「鶴岡市に日本国という地名があるとは、地元なのに初めて知った」とか、話が盛り上がり、高い評価をいただきました。

今回の番組は、ファミリーターゲットを意識し、1時間で飽きないように3つの柱を立て、タレントも起用し、「楽しくて分かりやすい構成」を心がけました。ぜひ今日は勉強させていただきたいと思いますので、忌憚のないご意見をよろしくお願いたします。

谷口委員長

どうもありがとうございました。では、高橋さんからお願いします。

高橋ディレクター

余りにも身近過ぎてふだんは存在すら気にすることなく何気なく眺めている「地図」ですが、改めて地図の面白さか、偉大さというようなものを再確認したいという思いで制作に当たりました。

1時間の番組の中で3つの話題を取り上げています。1つ目は、地図に記された地名の面白さということで、山形県鶴岡市にある「日本国」という地名を紹介しています。日本の中に日本国があるという摩訶不思議な現象をタレントのザ・ニュースペーパーのお二人が得意

の小泉純一郎と安倍晋三の元首相に扮して紹介しています。

2つ目は、地図に引かれた地形の面白さということで、フィンランドとスウェーデンの国境の上に存在するゴルフ場を取り上げています。その国境がゴルフ場を通っているという面白さはもちろんですが、両国の間には時差があったりとか、北欧ですので白夜だったりとか、そういったことも盛り込みながら構成しました。

最後が地図をつくる大変さ、地図の偉大さということと伊能忠敬が行った「海上引き縄測量」の再現に挑戦しています。その挑戦する舞台を釜石市の唐丹にしました。伊能忠敬の功績をたたえる碑は全国各地にあります、伊能が生きているときに唯一建てられた碑というのが唐丹にありまして、そういったものもあわせて紹介したいと思い、今回の再現の舞台を釜石市の唐丹にしました。番組の中でも言っていますが、海上での測量については資料がなく、これまで一度も再現されたことがありませんでした。そういう中で、残っている数少ない資料から推測などを交えながら、伊能忠敬研究会と地元唐丹の方々の協力をいただいて、何とか史上初の再現に挑戦することができました。

ソフト工場はフジテレビ初め系列各局でも放送されます。岩手から全国発信ということもあり、できるだけ取り上げる内容については岩手のネタを入れて番組制作に当たりました。

谷口委員長

どうもありがとうございました。では、それぞれ委員からご意見を伺いたと思います。まず、土樋委員からお願いします

土樋委員

これまで2年間の議題の中で、ここまでコミカルな砕けた内容のものはなかったような気がします。全然飽きませんでした。逆にここまで砕けると、他の委員の方がどんな意見を言うのかちょっと気になって、それも面白いなと思いました。

ゴルフの場面では高橋アナウンサーと水巻プロがおかしいことをまじめな表情で進行しているのが非常に面白く、クックッと笑いながら見ていました。

後半の伊能忠敬の測量の正確さとか、気の遠くなるような作業の連続に本当に頭が下がる思いがしました。本当に楽しい、肩の凝らない番組でした。

谷口委員長

どうもありがとうございました。菅原委員からお願いします。

菅原委員

私にはこれはめちゃくちゃ受けました。尻上がりにどんどん面白くなってくるんですね。制作者の軽妙に笑わせようという努力、それとは無関係に大真面目に事に取り組む出演者、このブレンドの具合がとても良く出ていて、真面目にやればやるほど面白い。伊能忠敬の地図での誤差40メートルというのは、大変すごいことですよ。扇子を広げての手旗信号のような場面も、気迫がこもっていておかしい。悪ふざけにも過ぎず、真面目な人たちが巻き込まれて一生懸命やればやるほどだんだんおかしくなる。大事なことも、感心する部分もきちんと伝えている。なかなか面倒もかかったと思います。よくやったなと思いました。適度に笑わせる、それで適度にちゃんと言いたいことも言う。「へえ」と思わせる面もたくさんある。ですから、これは何の文句もなく、大変優秀な番組であったと思います。真面目一方でもチャンネルは切り替えられます。ブレンド具合がちょうど良かったと感じました。

谷口委員長

どうもありがとうございました。次は八木橋委員からお願いします。

八木橋委員

私も大変面白かったと思います。2番目のゴルフ場での高橋アナウンサーが真面目くさって実況しているのも面白かったのですが、イケアの家具店の中でいろんな国のナンバーの車が停まっていますよというところが非常に面白かった。レジでの支払いで国境を跨いできた人は両方のお金を持っているのか、その場で両替しているのか、その辺を見たらもっと面白かったな、笑えたな、という気がしますが、それは欲です。

3番目の伊能忠敬の「引き縄測量」の再現は文句なしに面白かった。非常に貴重な測量方法だし、絵師を連れて行って、多分目印の絵を描いているのだから、そういったものをどうやってやったのかとか、一説には三角測量をやったという説もあるからどうやってやったのか、非常に見ながら興味を持てる番組で、コミカルではあるけれども、非常に正確な資料を出していて、大変面白かったと思います。最後に行くほどだんだんすごいものが出てくるという感じはしました。最後の「引き縄測量」の再現は素晴らしかったと思います。

谷口委員長

どうもありがとうございました。次は、斎藤雅博委員からお願いします。

斎藤雅博委員

寺田寅彦が「有用な知識の宝庫」という形で地図を紹介していましたが、全くそのとおりで、知的好奇心をそのまま番組にしたという印象を持ちました。

私は、最後の「海上引き縄測量」が一番面白かった。日本初の再現ということでは、非常にいい企画だと思います。私は、銀行の釜石支店におりました時、唐丹には何度も行っていたのですが、その測量の碑があったということは知りませんでした。反省をしております。あの測量に参加した住民の人たちは結構大変だったと思うのですが、一つのことを一緒にやったという達成感とか、参加して楽しかったのではないかと見ておりました。

それから、2番目の「国境を越えるゴルフ場」というのは、着眼点が非常に面白い。ただ、これはちょっと余談ですけれども、あまりゴルフ場は手入れがされていなくて、あんなところでやったらとんでもないスコアだったのではないかと感じました。岩手から2人のプレーヤーが出ていて、岩手に関連したという点では良かったのですが、あそこではプレーはしたくないなと思って見ておりました。

「地図にまつわる知識の宝庫」という点では、目的を達成していたと思います。シリーズ化というお話ありましたが、ぜひシリーズ化していただければなと思いました。

谷口委員長

どうもありがとうございました。次に中原委員からお願いします。

中原委員

タイトルを見たときは、一体何だろうなと思いました。このタイトルは人を引きつけると思いました。寺田寅彦が出てきたり、伊能忠敬が出てきたり、この番組を見たことで、世界地図と地球儀を買おうという思いもさせてくれ、非常に良かったと思います。

私はゴルフに余り関心がないこともあると思いますが、2番目の「国境を越えるゴルフ」は、だらだらするような印象を持ちました。もう少しコンパクトに見せて欲しかった。

麻生太郎と東国原知事の変装は、ちょっと汚かったですね。小泉純一郎と安倍晋三は若干似ていたものだから、特に知事のほうはちょっとふざけ過ぎじゃないかという思いで見せて

いただきました。

ただ、全体を通して私も知らなかった「がっかり島」とか、「日本国」とか、「鼻毛」とか、そんな地名が出てきたので、「はい地～図！」というタイトルはなるほどという思いで見せていただきました。北欧に行ったり、海上測量をしたり、随分お金がかかったのではないかなと余計なことも思いました。それから出演者のパンチ佐藤は適役だなと感心しました。ともあれテレビならではの楽しい番組を作って見せていただきました。

谷口委員長

どうもありがとうございました。次は、村上委員からお願いいたします。

村上委員

地図というお題の膨らませ方、展開の仕方に意表をつかれました。1時間の番組ですけれども、そこにテストの違う3つのテーマを選んでやったというところも非常に面白かった。この一つのテーマでも1本できそうな内容のものを三つという非常にぜいたくな番組だったと思います。逆に情報量が多過ぎて、もうちょっと絞ってもよかった部分があったのでは、と思うところもありました。

この3つのテーマはそれぞれに人がたくさん出てくるのがすごく良かった。「がっかり島」では地元の漁師さんがぼそぼそと船の上で説明してくださる。すごく良い導入だったような印象があります。それから、ナビゲーターですか、パーソナリティーのような案内役がいて、この3つのテーマそれぞれに全部個性の違う人の登場があって、非常にそれは面白かった。

国境を越えるゴルフ場でも岩手のシニアのプレーヤーが出ましたけれども、お二人が堂々としていて、岩手のいいおじいちゃんたちが北欧で伸び伸びとプレーしているところがすごくほほ笑ましかった。地元の方々との交流も自然に見えて、最後はこの3つテーマとも「はい地～図！」というお決まりの言葉の記念撮影で終わっています。人をどんどん出していくということでもとても素敵な締めだったと思います。

海上の測量も地元の漁師さんと小学生と、パンチ佐藤さんたちがすごく生き生きと楽しそうに実測しているのも良かった。地図そのものがテーマだったので、最後にここでストンと決まったなと思いました。

谷口委員長

どうもありがとうございました。次に、東海林委員からお願いいたします。

東海林委員

私には小学校6年生の長男がおりますが、政治にもちょっと興味が出てきたところです。息子のクラスで人気があるタレントさんはだれと言ったときに、ニューズペーパーの名前も出てくるそうです。政治のことをニューズペーパーだったら自分たちにも分かる言葉で話してくれるということらしいです。ファミリー層をターゲットにした番組づくりということでしたので、ニューズペーパーが出てきて、つかみを押さえているなと思いました。

今回、実際に伊能忠敬がどのように測量したかということを実証なさるといことで、非常に興味深く拝見させていただきました。実際にあれだけの偉業を成し遂げたのは、地元の方々の協力なくしてはきっとできないことだろうと思いました。今回の番組の収録に協力してくださった方よりももっとたくさんの方たちが訳も分からずに協力したのではないかなと想像を巡らしました。唐丹小学校の子供たちが協力していましたが、きっと良い思い出となったことですね。子供たちが今回の番組づくりに協力できたということが、その子供たちがまた自分の子供にも伝えられるでしょうし、唐丹の人たちにとっては誇りある出来事だったと思います。伊能忠敬の時代の地元の人たちの協力があってこそ成し遂げられたことなんだなあ、というところが今回の番組の中で非常に心に残ったことでした。

谷口委員長

どうもありがとうございました。次に、役重委員からお願いします。

役重委員

ニューズペーパーの2人が(メーキャップには異論も先ほど出ていましたけど)文句なしに面白い。まずその起用は良かったなと思いました。それぞれ面白いテーマだと思いますが、地図そのもの、成り立ち、作り方に正面から取り組んだのは、伊能忠敬の部分でした。現場で実際にやってみたその面白さは格別でした。それから、岩手の方は、テレビ局の人が来るよとか、東京から偉い人が来るよとかいうと、何か素朴にホスピタリティーを発揮するところがあり、それが岩手に残っている伊能忠敬の記念碑で200年前も同じようだったのかなとイメージが湧くところがありました。



ファミリー層がターゲットというお話もありましたが、ニューズペーパーが出てきているあたりまでは小学校6年の息子と2人でハハッと笑いながら見ていたのですが、後半は息子は寝てしまいました。ファミリー向けという範疇は番組にしても、イベントにしても、商品にしても当たり前のように言われますが、本当は難しいことだと思います。低年齢層、若年層ということあまり意識し過ぎないで、テレビの側がすり寄らず、多少退屈なところあっても大人の良識で制作することが大切だと思います。大人が見て良いものは、分かる子にはきちっと伝わっていくし、そのとき分からなくても後で思い出して伝わっていくということもあると思います。ファミリー層と言うときに、オール年齢向けということだけにこだわらずに、長い目での番組づくりもお願いしたいなと思いました。

谷口委員長

どうもありがとうございました。次に、吉田委員からお願いいたします。

吉田委員

私も愉快に見させていただきました。今後シリーズ化ということを考えるのであれば、テーマ性が大事だと思います。一つの例で言いますと、例えば方言から関係するものだけに絞る、そうすると非常に分かりやすい。だから、「日本国」がある、あるいは「鼻毛」がある、さまざまあるのですが、方言からくるものだけに絞った変わったネタ、話題というものに絞られたほうが良かったのではないかなと、あえて感じました。

それから、「国境を越えたゴルフ」では真面目くさったアナウンサーが大変面白かった。それはそれでいいのですが、日本とスウェーデンとフィンランドが長寿国ということであればできれば100歳ぐらいの人にゴルフをやらせるとか、そのぐらいのひねりがあったら、もっと面白かったのではと思いました。

最後の海上測量がメインだったと思うので、再現に当たっての苦労話をもう少し解説していただければ良かったのかなという感じがしました。

谷口委員長

どうもありがとうございました。最後に、椎井副委員長からお願いいたします。

椎井副委員長

非常に楽しく私も拝見させてもらいました。ファミリー層向けの番組というのは、ただ笑いだけではなくて、やはり何か学問的な裏づけというか、あるいは訴えるものが必要だと思います。見ていて良い番組だというのは、笑いだけではなく、いい勉強したな、頭に残ったな、というものが一つ必要なのかなと思っています。

最初の地名の話は、乱暴な言い方をしますけれども、どこかの局でも見たことがあるような気がして、あまり関心、興味は湧きませんでした。

2番目のゴルフの話も、プレーの時間が長くて、国境を跨ぐということでの学びの切り口があっても良かったと思いました。

3番目の海上測量の話は、一番楽しかのですが、解説が(フリップも出ていましたけども)早口でちょっと分かりにくく、測量の仕組みをもう少しみ砕いて解説したほうが良かったと思いました。

地図の面白さは、色々な切り口がありますが、私は地図の見方から入った地図の面白さ、楽しさというものもぜひ追求していただきたいと思っています。例えば、日本人は日本中心の世界観で地図を見るのですが、他の国に行くと自分の国が中心ですから、まるっきり違う地図の見方をするわけです。ロシア中心で見ると日本とは極東のもっと外れ一番端っこの国だという見方もしますし、韓国を中心とすれば、日本海というのは湖のように見えたりします。地図の見方を一つ変えるだけで発想が広がります。地図を見る楽しさ、地図の不思議さ、そういったテーマも面白いのでは、と感じました。

谷口委員長

どうもありがとうございました。それでは欠席委員のレポートを事務局よりお願いします。

久慈委員レポート

宮古市の「がっかり島」は驚きましたし、「日本国」という地名にこだわっての現地レポートもなるほどと思いました。また、海外取材するほど力を入れているにも驚きました。

それぞれの企画自体は楽しめたのですが、それが地図をテーマに1時間も続くと、残念ながら途中で飽きて来てしまいました。このような番組は、一時間番組の中の1コーナーでしたら「なるほど」とか「へー」とか意外性もあるのですが、1時間はきついなと感じました。

全体テーマの「地図」をもう少し考えるともっと良い番組になったような気がします。

#### 齋藤純委員レポート

旅行好きの私にとって、地図は下着などと同様に体の一部となっています。下着と違うのは、地図は見ているだけで時間のたつのを忘れさせることでしょう。

今回は面白い地名など知らないことがたくさんあって楽しめました。また、伊能忠敬の海上引き綱測量の再現は見応えがありました。それにひきかえ、国境をまたぐゴルフは冗漫で退屈でした。この半分の尺の番組にしていれば、もっと引き締まった番組になったと思います。時間を埋めるのに苦労したようなところがあって「ご苦労さんだな」と思いました。

#### 谷口委員長

どうもありがとうございました。寺田寅彦さんの言葉が最初に出てきましたけども、さらに、地図の重要性をエンターテインメントだけではなくて、我々への教育的効果として制作していただければ非常に良いと思います。

タイトルに「map mystery」とあり、どんなミステリーが出てくるのかと期待を持っていたのですが、そこがはっきり出てこなかったと感じました。

全体としては、教育的効果とエンターテインメント効果が上手くミックスした非常に良い番組だったと思います。

#### 事務局

今回の審議会の模様は、10月11日(土)朝4時30分から「めんこいテレビ批評」として放送いたします。次回は、11月5日(水)を予定しております。本日はありがとうございました。